



2020年  
12月1日  
火曜日

発行所  
山陽病院  
認知症サポート  
チーム (DST)

## 音楽の秋、オータムコンサート

10月31日(土)、3階デイルームにて「オータムコンサート」が開催され、多くの患者・スタッフが参加した。

総務の前田久美子さんがピアノ、医局秘書の野母紀子さんがバイオリン、公認心理師の村島悠香さんがフルートを担当し出演。

「さんぽ」「カノン」「四季のメドレー」といった聴きなじみのある曲が演奏され、参加者全員が演奏に聴き入っていた。

ウクレレクラブからは、内科医師の岩本竜一先生、公認心理師の佐野ひかりさん、経理の藤井美香さん、総務の廣松八重美さん、大浦圭子さんが出演。バリトンウクレレを用いて「待つわ」「瀬戸の花嫁」など、懐かしい曲が演奏され、演奏とともに患者が歌を口ずさむ様子がみられた。

盛大な拍手の後、コンサートは終了。患者やスタッフから「良かった、楽しかった」「またやってほしい」などの声が聞かれ、コンサートは大成功を収めた。



司会進行を務めた  
4階病棟 藤原さん



ピアノ・バイオリン・  
フルートによる演奏



演奏後のウクレレ  
クラブの皆さん

## クリスマスコンサート開催決定

12月25日(金)の「お楽しみ会」にて、「クリスマスコンサート」が開催決定となった。



2019年度のハンドベル演奏会の様子

※「お楽しみ会」は第1・3土曜日、第2・4金曜日の12時45分から行っている

おなじみのハンドベル演奏に加え、今年はオータムコンサートで活躍したメンバーも出演。演奏曲は12月らしいものを予定しており、入院患者に楽しんでもらえるよう、スタッフたちは日々演奏の練習を行っている。お楽しみ会に参加したことのないスタッフも、ぜひご参加いただきたい。

## 地域包括ケア病棟のGroupな取り組み

患者やスタッフの素晴らしい取り組みを2つ紹介する。

この度のオータムコンサートで使用した装飾は、実は入院患者数名に協力をお願いし、作成していただいたものがほとんど。装飾作りの時間に患者同士の交流が深まったようで、「有意義な時間でした」「楽しかった」といった感想をいただくことができました。また、ある日の夜間、入眠困難な認知症患者が「お母さん、お母さん」と訴えた際に、看護師の田邊悠さんが母親役を担い、5分ほど手をつなぐという対応を行った。すると安心されたのか、入眠することができた、ということがあった。

認知症が進行すると、状況の把握が難しくなり、不安が強くなる方も多い。患者が安心できる対応を今後も行っていきたい。

## 認知症と非薬物療法

認知症の治療には、認知機能の改善と生活の質(QOL)向上を目的として、薬物療法と非薬物療法が組み合わせて用いられる。

特に、認知症の周辺症状(BPSD)に対しては非薬物療法が優先的に適用され、抑うつ・不安・興奮・易怒性などの症状が緩和するといったよい効果がみられている。

ここでは、10月9日(金)に行った勉強会で扱った音楽療法と回想法について取り上げる。

音楽療法とは、音楽の提供を通して心身の健康の回復、向上をはかる療法である。認知症患者に対しては、不安が和らぐ、自伝的記憶(経験した出来事に関する記憶)が改善するなど、さまざまな効果がみられている。

回想法とは、過去の楽しい思い出を回想し、共感的に対応してもらうことで心を安定させ認知症の症状を穏やかにする療法である。回想法を行うことで、表情が豊かになる、行動・心理症状が減る、「こんな一面があったのか」と介護者側の本人に対する意識が変化するとといった効果が期待できる。

今後の臨床現場において、このような療法が積極的に取り入れられることを期待したい。



講師を務めた公認心理師  
の佐野さんと村島さん



勉強会のグループ  
ワークの様子